

えがおになあれ

58

子どもたちが明るく元気に育つのを
見ると、未来に希望を感じます。
毎日を心豊かに過ごし、子どもも大人
も「えがおになあれ」…そんな願いを
込めて、このコーナーを設けました。
(出雲市要保護児童対策地域協議会)

魔法の言葉

「おはようございます。」とお母さんと一緒にやってきた2歳児Aちゃんの手には、紅葉した落ち葉。「赤いね」とお母さんが声をかけると、「あか、あか」と嬉しそうに手を挙げて見せてくれました。出勤前の忙しい時間に駐車場で落ち葉を拾いを見守り、まだ言葉にならないAちゃんに「赤いね」と声をかけたお母さん。そのおかげで、Aちゃんは、身近な秋の自然を感じたり、「赤」という色を知る機会になったことかもしれません。そう感じた朝の出来事でした。

このように子どもたちは、周囲のいろいろなことに興味や関心、探究心や好奇心を持ってかかわる中で、集中して遊んだり(集中力)、友達と遊んだり(人とかかわる力)、自分の感じたことを伝えたり(表現する力)…さまざまな力を得ていきます。少し大げさな言い方になりますが、乳幼児期の子どもたちにとつての遊びは、人として生きていくための土台作りをしているように思えます。

子どもが遊ぶのは当たり前。でも、お子さんが何に心を揺さぶられ、何を感じているのかをキャッチして、必要な時に必要な言葉をかけてあげることで、お子さんの心はワクワクドキドキしたりするものです。お父さんやお母さんの声かけは、お子さん

要保護児童対策地域協議会は、子どもが健やかに育つよう社会のさまざまな機関が子育て中の家庭を見守り、必要に応じて支援し、児童虐待等のない社会を目指すために組織したものです。

んの豊かな心を育む魔法の言葉となるでしょう。

さあ、今日はお子さんにどんな魔法をかけますか？



たんぼほの綿毛を見つけたR君。「綿毛どこまで飛んでいくのかな。」という保育士の言葉がけて、道端でよく見かける綿毛が夢ある綿毛に変身。旅立っていく綿毛にずっと手を振っていたR君でした。



木工遊びで、釘を打ち付けてトンネルを作ろうとしますが、うまくいかずに自分の指を一撃したH君。保育士の手助けもあり何とか完成。「あきらめないで、頑張ったね。」の一言で満面の笑みを浮かべたH君でした。釘は、曲がって打ちつけられていました。

おたすね / 子ども政策課

☎ 216604

となりの

ミロトツキ

生きものを育む農法について

第21回



新潟県佐渡市では、トキの生息環境の整備が行われています。トキが巣を作るための木や、エサとなる生きものなどトキを取り巻く生態系を良好な状態に保つ活動です。

放鳥されたトキは、主に田の生きものを食べるのが分かっています。今回は、トキのエサとなる生きものを育む農法について佐渡市の例を紹介します。

江(え)

トキは主にドジョウ、カエル、ミミズを食べています。これらは人が田に水を張り、耕作することで、そこに住み着いた生きものです。水田の一部に水がたまる深みを作ると、夏場に田の水を抜く中干し期にも水生の生き

ものが逃げ込めます。この深みを佐渡では江と言っています。

魚道(ぎょどう)

水路に魚道を設置することで、分断された田が複数の田や河川とつながり、田に生きものがやってくるようになります。

ふゆみずたんぼ

稲刈り後に田に水を張り、冬場にも生きものが生息できる環境を維持します。

次回は、佐渡市の「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」について紹介します。

おたすね / 出雲市

トキ分散飼育センター
☎ 201350